

小笠原先生の奈良・古代史講座のご案内

主催 奈良歴史遺産市民ネットワーク

事務局 〒630-8306 奈良市紀寺町883-4

Tel・fax 0742-23-3934 小宮みち江

講師 小笠原好彦氏 滋賀大学名誉教授・文化財保存全国協議会常任委員

講座会場 奈良県教育会館 開講13時30分(開場13時) (奈良県文化会館西隣 近鉄奈良駅より徒歩5分)

参加資料代 500円

2月10日(火) 《弥生時代の市と唐古・鍵遺跡、吉野ヶ里遺跡》



弥生時代の稲作文化は、大陸から導入されたものです。水田を耕す弥生社会では、人々は定住したので、所定の場所で諸物資を交換・交易する市が設けられました。そして、その最初の初源的な市から発展した市の実態を。弥生時代の板付・唐古・吉野ヶ里遺跡などの環濠集落をもとに考えてみます。

3月10日(火) 《古墳時代の市と首長居館の極楽寺ヒビキ遺跡》

古墳時代には、各地で首長居館が出現しました。この首長居館は、地域を統轄する政務のための施設と諸物資の流通をはかる拠点となったところでした。古墳時代には、この首長居館の一郭で、定期的に各地で生産された諸物資を交易する市が開かれました。古墳時代の市の実態を、御所市・極楽寺ヒビキ遺跡などをもとに、有力首長がはたした政治的・経済的な役割を考えてみます。

4月14日(火) 《飛鳥時代の市と軽市・海石榴市》

飛鳥時代は大和南部の飛鳥に王宮が設けられた時代です。飛鳥で国家的な政務がとられました。また、ここは諸物資の流通の中心ともなりました。その諸物資のりゅうつうの拠点となった一つは、飛鳥の西の軽の地に設けられた軽市でした。また、もう一つの市が初瀬川の上流河畔に設けられた海石榴市(つばきいち)でした。これらの軽市と海石榴市がはたした役割を具体的に考えてみます。



※感染症予防にご協力をおねがいたします。

☆☆☆ 事前の申し込みは要りません。どなたでも参加できます ☆☆☆